

コラム案【プラスチックごみ問題】

プラスチックごみを摂取して死亡した海鳥やクジラ、鼻にプラスチック製ストローが刺さったウミガメなどの心痛む報道がされています。

世界全体のプラスチック容器包装のリサイクル率は、14%、熱回収を含めた焼却率14%と合わせ、有効利用率は14~28%となっており、金属等の他素材と比べて低くなっています。^{※1}

日本におけるプラスチックのリサイクルは、マテリアル・ケミカルリサイクル27%と熱回収(サーマルリサイクル)56%を合わせて84%^{※2}となっていますが、一度の使用で廃棄されるワンウェイの容器包装廃棄量が米国に次いで世界で二番目に多いとも指摘されています。^{※1}

国においては、令和元年5月31日に「プラスチック資源循環戦略」を策定し、レジ袋の有料化義務化(無料配布禁止等)をはじめ、無償頒布を止め「価値づけ」をすること等を通じて、消費者のライフスタイル変革を促すとし、令和2年7月1日から「レジ袋有料化の義務づけ」が実施されています。

同年7月21日には、経済産業省、環境省が開催した有識者会議において、家庭から排出されるプラスチック製容器包装と製品を一体的に回収することを含めた施策の方向性を打ち出しました。

このままでは2050年までに魚の重量を上回るプラスチックが海洋環境に流出することが予測もあり、世界全体でプラスチックによる環境汚染防止を実効的に推進することが求められています。

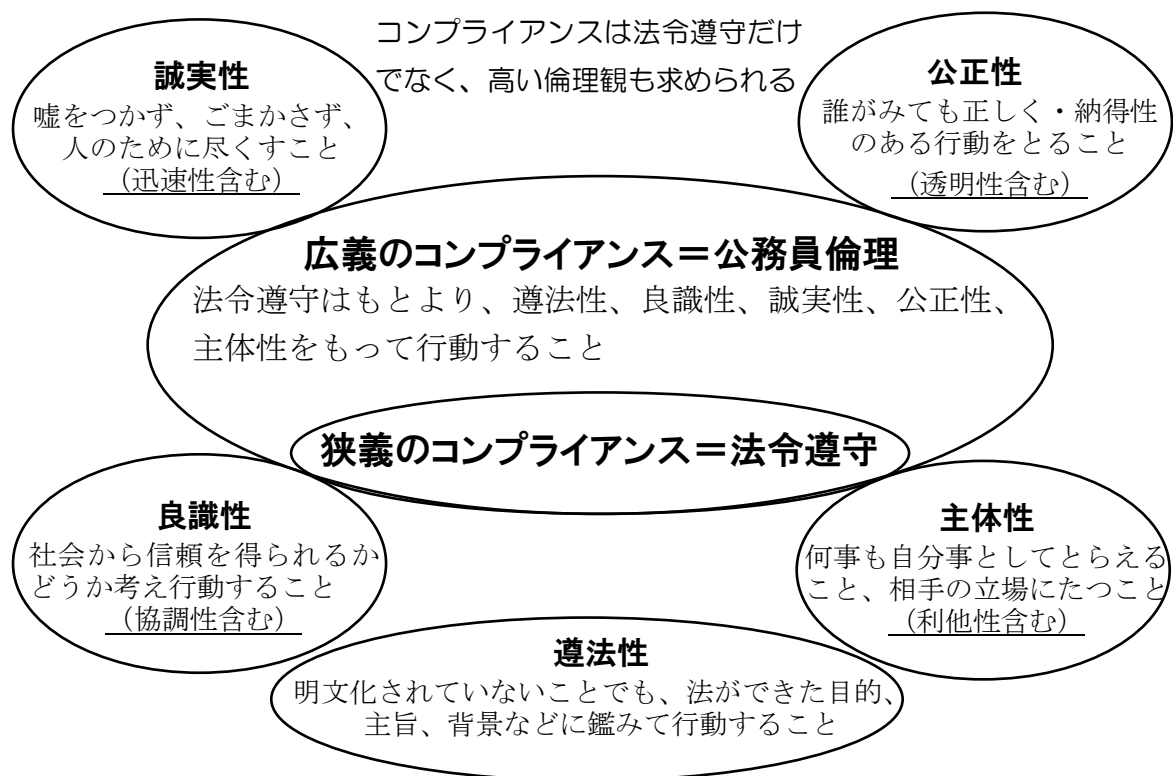
※1 「Single-Use Plastics: A Roadmap-for Sustainability」(国連環境計画 2018)

※2 「プラスチック製品の生産・廃棄・再資源化・処理処分の状況 2018」より。四捨五入による数値の不一致がある。(一般社団法人プラスチック循環利用協会)

ページの余白量によって、文章に変更が生じる可能性があります。

【コラム案】コンプライアンス

現在、公務員に求められる“コンプライアンス”には、法令遵守にとどまらず、公務員倫理として、遵法性（明文化されていないことでも、法ができた目的、主旨、背景などに鑑みて行動すること）、良識性（社会から信頼を得られるかどうかを考えて行動すること）、誠実性（嘘をつかず、ごまかさず、人のために尽くすこと）、公正性（誰がみても正しく・納得性のある行動をとること）、主体性（何事も自分事としてとらえること、相手の立場にたつこと）をもって行動することが求められています。



(清掃一組コンプライアンス研修資料より 株式会社ハリーアンドカンパニー作成)

ページの余白量によって、文章や図に変更が生じる可能性があります。